

# ISLAND CAMPUS 2022

## 事業報告書

令和4年度 鹿児島県アイランドキャンパス事業  
崇城大学芸術学部デザイン学科 馬頭亮太

## 1) 事業概要

少子高齢化、人口減の日本国内において、地域産業の担い手不足が叫ばれ今後の地方経済存続を賭けた活動の重要性は急務課題である。6次化(2011年に施行された6次産業化法以降)の流れを受け、島嶼部をはじめとしたいわば地方における地域産業の自活能力や新商品開発への注目度は年々高まっている。これらの機運の高まりと関係深いデザインという文脈では、2018年に経済産業省・特許庁によって示された「デザイン経営宣言」において、事業活動におけるデザインが担う役割の明文化と政策提言がなされた。都市部やナショナルカンパニーではデザインが経営と密接に関っていることは周知の事実であるが、この宣言をきっかけに地方都市圏や中小企業においてもデザインが経営と結びつくもの、という認識が広くなされたといっても過言ではない。

これら地域商品の開発や知名度向上を図るPRにおいて、それぞれ地理的特性や地域資源の活用におけるデザインの重要性は言うまでもない。こと島嶼部における特産品・新商品開発にあたっては、資金的・機会的な制約から、ステレオタイプ

的な意匠になりがちであるとともに、一部事業者だけが寡占する「点」の市場形成に陥りやすい(理由として、デザインという付加価値創造に対する投資的視点の醸成が図られてこなかったことが大きい)と推察する。これらの状況を超克した価値創造を考えるとき、島の自然や文化一体の魅力を如何に島外へ発信していくかという「面」での取り組みや訴求力の向上は必要不可欠である。

新商品や特産品開発という枠組みに留まることなく、島の魅力発信の底上げを図るために、島のもつ価値を共有財産(知的財産)として使用できる形態として整備することで訴求力の底上げに寄与できるのではないかとという発想に至った。そこで、島固有の自然環境や歴史文化をモチーフにした視覚表現を通して、島民(特に島内事業者)が自由に使える共有知財(クリエイティブ・コモنز・ライセンス)としてのデザイン資源の開発に取り組み、島を俯瞰的に捉えたブランディングのあり方の検討を通して、新特産品開発や商品デザインなど情報発信の機会における島の魅力・訴求力向上につなげることを目的とする。



記念撮影のためマスクを一時的にマスクを外しています

本事業には担当教員1名、デザイン学科在籍の7名が参加する計8名での実施を想定していたが、健康上等の理由により、最終的には5名の学生での実施となった。

福岡県 / 熊本県 / 鹿児島県出身の学生4名と留学生1名(マレーシア)  
Shamsul A. Lamri (デザイン学科3年)  
島田 彩音 (デザイン学科3年)  
船木 鈴 (デザイン学科3年)  
住吉 勇咲 (デザイン学科3年)  
杉本 涼真 (デザイン学科1年)  
欠席2名(病欠等)

事業実施期間：2022年8月1日～2023年2月10日  
現地調査実施期間：2022年11月19日～2022年11月21日  
現地調査地：鹿児島県薩摩川内市甌島

## 2) 実施行程

### 1. 予備調査

参加学生全員が「鹿児島島の離島が初めて」ということで、事前に島の地理的特性や観光・特産品など、ウェブ検索を通して甑島の基礎情報についての共有を行なった。

### 2. 現地調査

甑島の季節的な特性を考慮し11月中旬から下記2泊3日の行程で甑島を訪問した。

11月19日(1日目) P.6

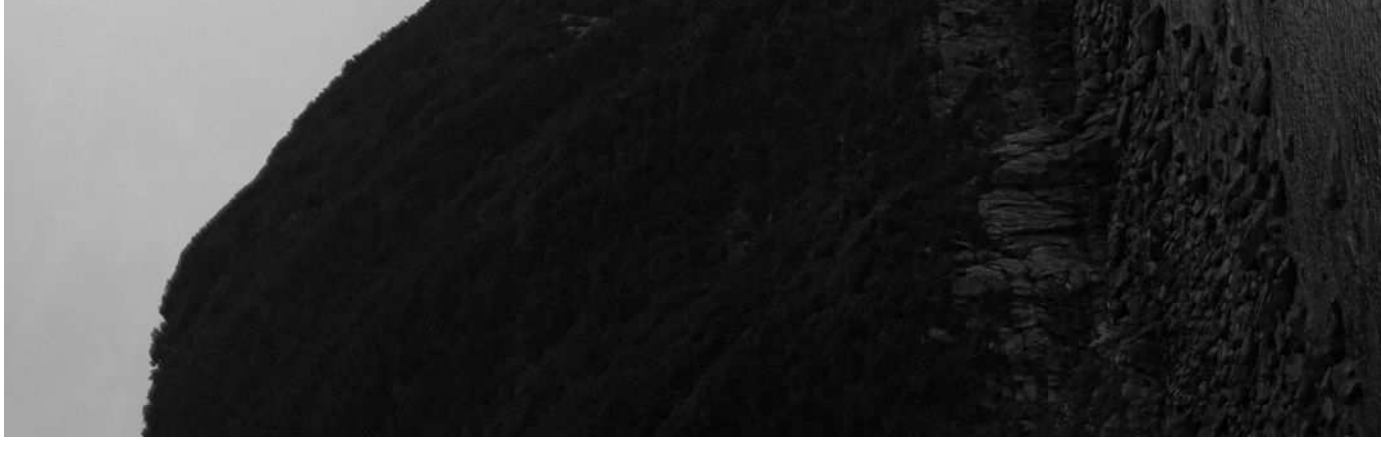
熊本市内集合/出発～串木野港発> フェリーこしき> 里港着  
里集落～中甑(昼食)～鳥ノ巣山展望所～宿

11月20日(2日目) P.7

里出発～長目の浜展望所～コシキテラス～夜萩円山公園(鹿島断崖)  
下甑～手打集落見学～下甑郷土館見学～オソノペーカーリー～宿

11月21日(3日目) P.11

朝食後里港発> フェリーこしき> 串木野港着～熊本市内帰着/解散





## 1日目 (11月19日)

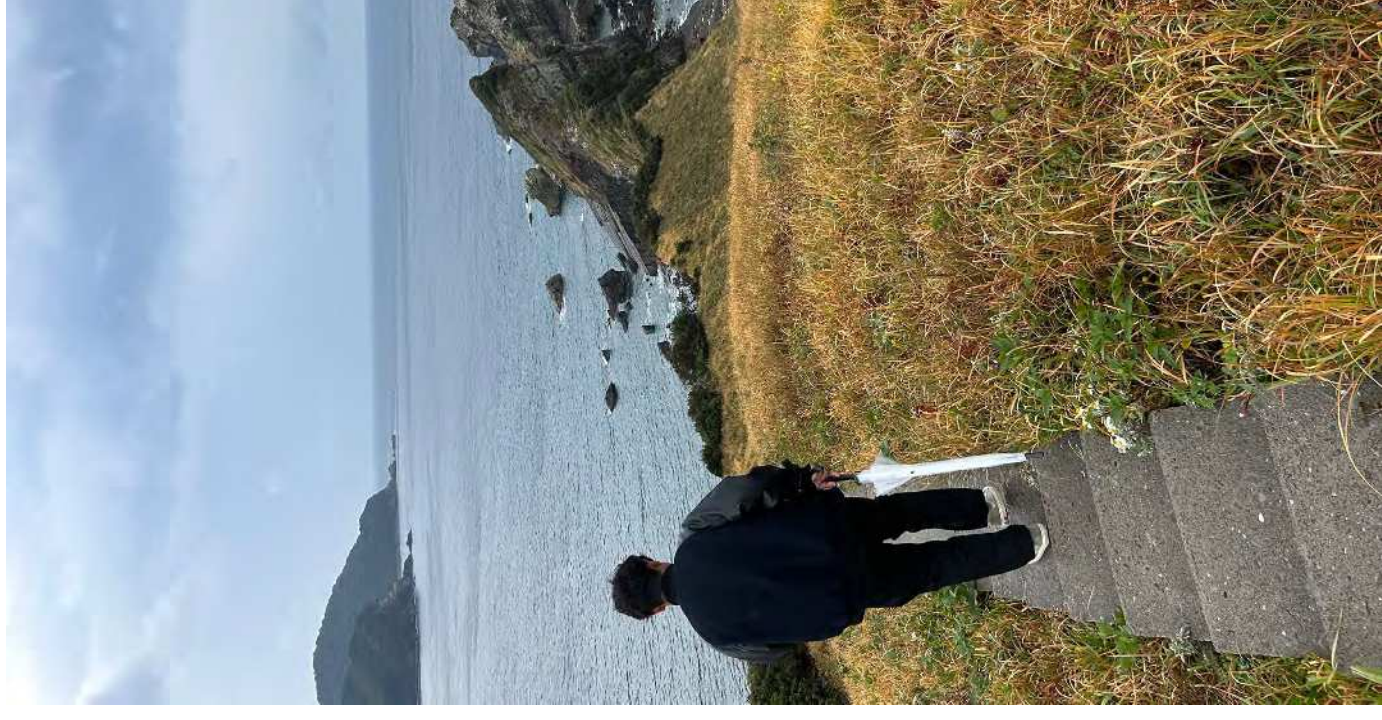
串木野港からフェリーに乗船。約1時間半の船旅。学生全員が初めての離島ということもあり、乗船前からあふたすする一幕。あいにくの雨天のため、レンタカー窓からの島内散策となった。



鳥ノ巣山展望所。シーズンにはカノコユリが咲く鳥ノ巣山展望所。2020年に開通した甑大橋と眼下に広がるパノラマが印象的な景勝地。上甑～下甑まで、島にはいくつもの橋がかけられているが、この甑大橋は見た目のインパクトが大きい。同時に島内流通や人の行き来にも大きな変化を生んでいる。



フェリーターミナルから15分ほどの中甑集落に立ち寄る。山間の風裏にあるためか中甑集落とは少し雰囲気が違う。島で唯一のエスカレーターがあるスーパーPOP1にて夕飯の買い出し。夕暮れ時であったが、多くの島民で賑わっていたのが印象的だった。宿には囲炉裏もあり、室内で火を焚くのは学生にとって初めての体験となった。



## 2日目 (11月20日)

天候が回復。2日目は島の南端、下甕を目指し出発した。

長目の浜展望所に立ち寄る。なまこ池、貝池、鋸崎池を眺める長目の浜展望所からの絶景を視察。密貿易に関与していた歴史的背景や、汽水域である貝池の特徴的な生態系(クロマチウム\*世界で7箇所)など、この島独自の自然環境についても理解を深めた。



風と波によってできた島を感じさせる玉石でできた長目の浜でロックバラシング(玉石積み)を体験。島の伝統的な石垣に用いられる玉石の風情から、この島のアイデンティティを強く感じられる。

昼食のため、コシキテラスへ。旧中甕フェリーターミナルを改修したコシキテラスを見学。島内事業者による拠点再生事例と提携メニュー、土産物について調査。来島者向けの独自商品ほどもデザイン性の高いものばかり。



特産のきびごを贅沢に使った美しい漬丼



夜萩山公園からは鹿島断崖を見学。写真で伝わらないスケール感。

天候に恵まれた2日目に立ち寄り寄った夜萩山公園から鹿島断崖を眺める。日本の地質構造100選にも選ばれる8,000万年前の地層が描く圧倒的なスケールに全員言葉を失う。写真ではまったく伝わらない迫力を訴求するための代替手段を探すも断念。頂上の公園では貝の化石がみられた。



下郷郷土館では、ふるさとガイド松田 利文氏に案内いただき、甕島最古の集落でもある手打集落をはじめとした「麓」に島のルーツを学ぶ。鎌倉武士の系譜から人々の誇り、文化、歴史を横断する講義。郷土館1階では脈々と営まれてきた島の生活文化や道具から島の生い立ちに造形のヒントを探した。





また、手打地区コミュニティ協議会 梅津 正興氏からは、現在の集落での生活やこの島の価値について、梅津さんの撮られた写真を見ながらお話しをいただいた。

収蔵品の数々に島内の暮らしを垣間みながら、現在に至るまでの島の變化や、これからの世代が伝え考えていかなければならないことなど、お二人との会話を通して多くの気づきを得ることができた。





里集落のオソノベカーリーにて東シナ海の小さな島ブランド株式会社山下賢太氏から、島の実情と未来のふるさとについてご講演いただきディスカッションを行なった。

島内において複数の事業を手掛ける山下さんからは、「未来は辺境にあり」というテーマで、地域の課題を価値に変える集落デザインについてお話しいただいたが、これは学生にとって相応に大きなインパクトがあったようだ。と同時に、島の事業者をはじめ、同様に島の価値を伝えよう届けようとする人にとって”広義のデザイン”は必要不可欠であり、本事業の成果も少なからずこうした事業活動やブランドレベルでの島のブランドづくりにおいて役立つ場面があるのではないかと改めて認識することができた。



3日目 (11月21日)

最終日は朝食の食材を堤防で調達。釣り上げた魚を炭火で調理し朝食をとった。コロナ禍での自由な学生生活を制限されていた彼らにとっては、今回の実地調査のどれもが思い出深いものとなったようだ。



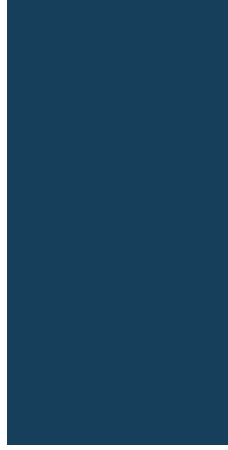
### 3) デザイン検討

2022/11/19-21 (2泊3日) に実施した現地調査の中で、実際に島で見たこと・感じたこと・考えたことをメンバー感にて共有し、学生と共に「島の色 (P.12 ～)」と「パターンンググラフィック (P.19 ～)」の2つのテーマをもってデザイン展開に取り組んだ。

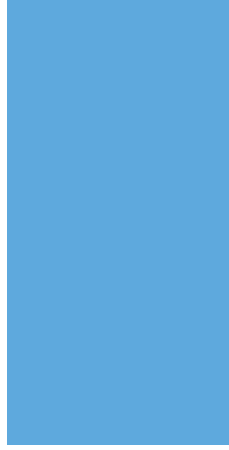
#### 【島の色】

ブランドイングにおいて重要な要素を占める色。島ならではの、もしくは島を想起させる色彩を探るべく、島内で実施したカラーハンティング(色に着目し撮影した写真などから色彩情報を抽出)を通して得られた色に命名を行った。あわせてカラーデータとともに整理・マッピングを行い50色のカラーチャートを作成した (P.18)。

島の色については景観要素から抽出されるものがそのほとんどを占めたが、中には島の生活の中での印象や島民の朗らかな印象に着想を得た配色も見られた。



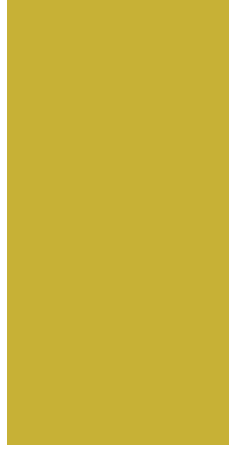
海原色  
C:100 M:80 Y:50 K:20  
#003A59



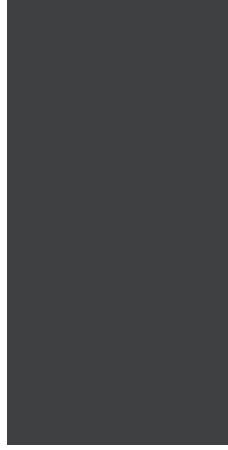
すみわたた色  
C:60 M:20 Y:0 K:0  
#65AADD



カノコ色  
C:20 M:70 Y:0 K:0  
#CA67A4



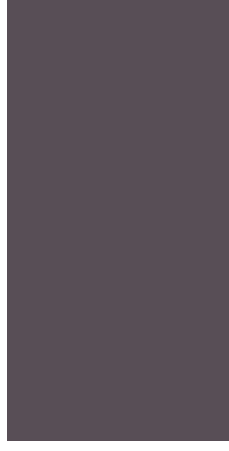
メジロ色  
C:25 M:25 Y:95 K:0  
#CCB716



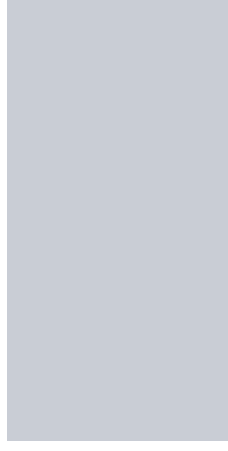
おやま色  
C:100 M:80 Y:50 K:20  
#3E3A39



烏居色  
C:30 M:90 Y:100 K:10  
#AE361D



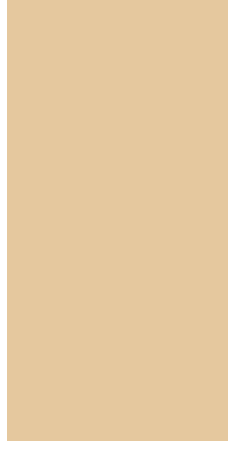
断層色  
C:70 M:70 Y:60 K:20  
#594C51



岩肌色  
C:20 M:15 Y:10 K:0  
#D3D4DC



木陰色  
C:85 M:80 Y:65 K:45  
#282B37



木漏日色  
C:10 M:20 Y:40 K:0  
#E9D0A1



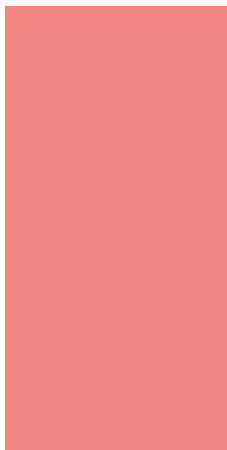
山日色  
C:51 M:27 Y:90 K:0  
#91A13C



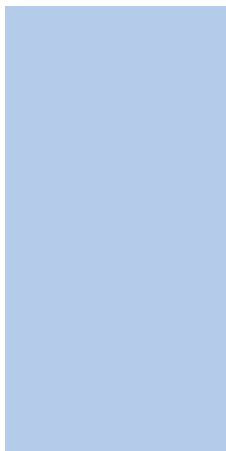
丸石色  
C:92 M:88 Y:65 K:49  
#172032



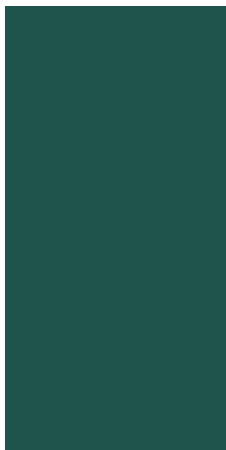
地層色  
C:50 M:65 Y:100 K:9  
#8E6125



挨拶色  
C:0 M:59 Y:40 K:0  
#EF887F



飛沫色  
C:28 M:12 Y:0 K:0  
#C1D4ED



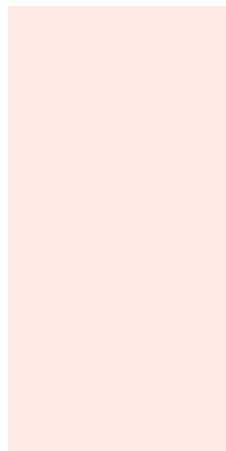
島緑 (しまどり)  
C:90 M:58 Y:70 K:21  
#005248



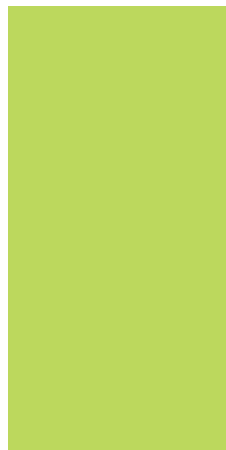
武士紫  
C:86 M:84 Y:42 K:6  
#3E3D68



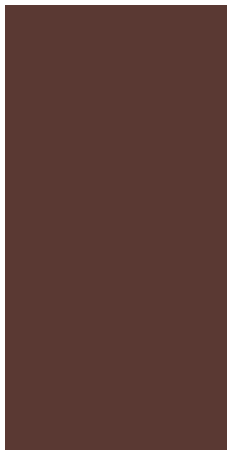
籠明 (こしきかり)  
C:0 M:44 Y:90 K:0  
#F5A41A



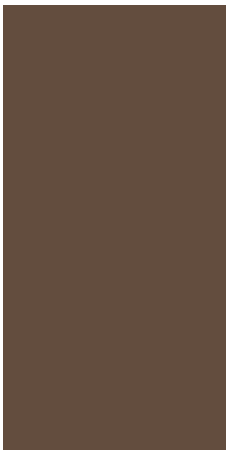
魚見 (うおみ) 色  
C:0 M:8 Y:8 K:0  
#FEF1EA



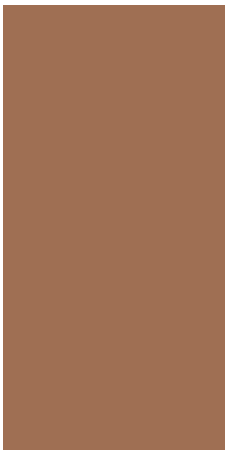
木漏日色  
C:30 M:0 Y:81 K:0  
#C3D94D



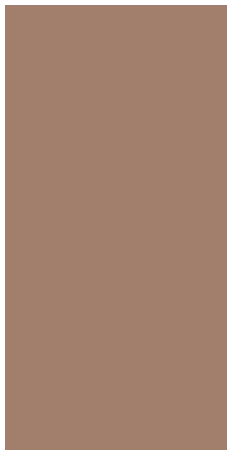
ちそうあか  
C:60 M:78 Y:79 K:35  
#5F382F



ちそうちゃ  
C:61 M:69 Y:78 K:25  
#674C39



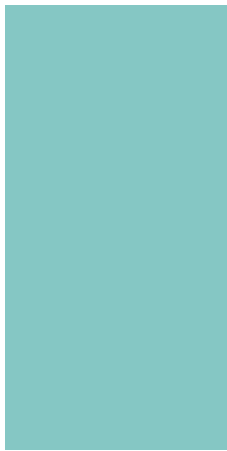
ちそうでいがん  
C:42 M:63 Y:76 K:1  
#A46E49



ちそうさがん  
C:41 M:54 Y:60 K:0  
#A67F65



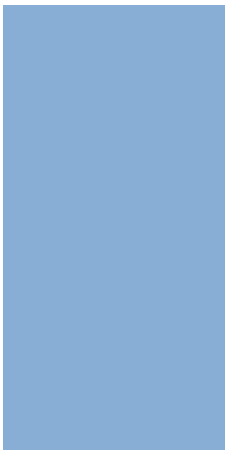
しまのにちじょう  
C:8 M:19 Y:80 K:0  
#FOCF42



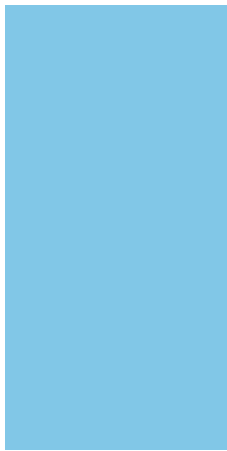
うすかいゆん  
C:47 M:4 Y:25 K:0  
#8ECAC6



うすしんえん  
C:50 M:41 Y:5 K:0  
#8D91C0



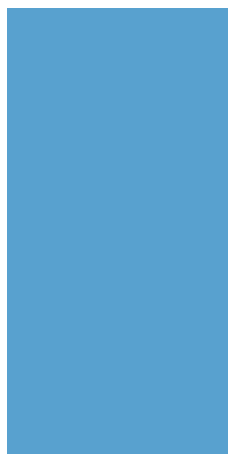
うすしんかい  
C:46 M:22 Y:3 K:0  
#9484DA



木陰色  
C:46 M:6 Y:3 K:0  
#8ECAEB



しまみどり  
C:75 M:14 Y:89 K:0  
#369E4B



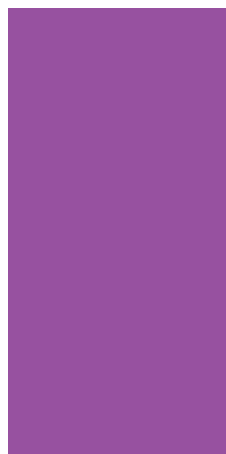
藍きび色  
C:64 M:24 Y:5 K:0  
#5CA1D2



藍なご色  
C:9 M:74 Y:52 K:0  
#DE6161



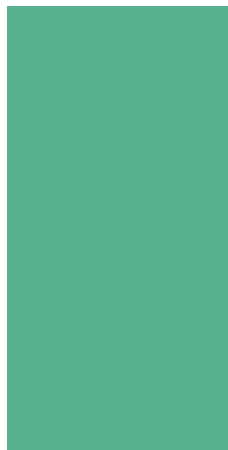
カノコ色  
C:12 M:93 Y:21 K:0  
#D52775



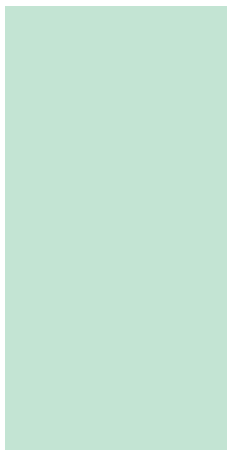
藍シーグラス色  
C:46 M:81 Y:0 K:0  
#9A4796



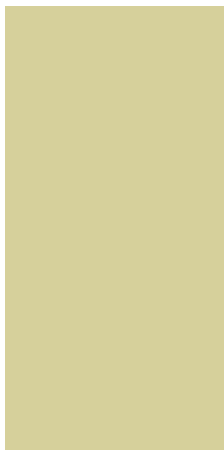
藍にゃー色  
C:90 M:78 Y:9 K:0  
#294592



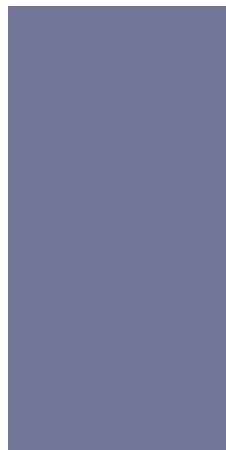
藍大地色  
C:67 M:8 Y:56 K:0  
#51AF87



藍湖色  
C:24 M:0 Y:20 K:0  
#CDE7D6



藍層色  
C:17 M:12 Y:45 K:0  
#DDD89C

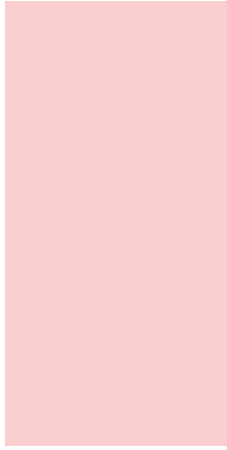


藍まる色  
C:63 M:55 Y:27 K:0  
#717394



藍満たす色  
C:6 M:64 Y:4 K:0  
#E37AA9

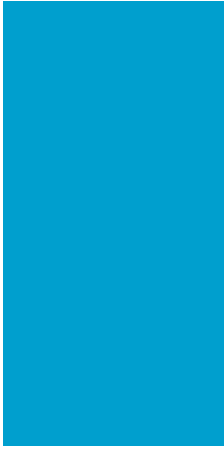




こしきオトメ色  
C:0 M:23 Y:10 K:0  
#FAD5D6



こしきカノコユリ色  
C:25 M:100 Y:50 K:0  
#C00E53



こしきナミ色  
C:90 M:15 Y:10 K:0  
#0097CF



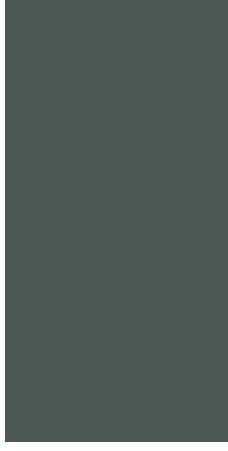
こしきピナゴ色  
C:95 M:90 Y:0 K:35  
#181F6F



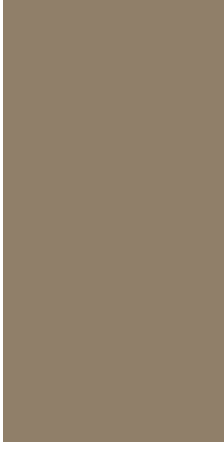
こしきセイカイ色  
C:80 M:15 Y:35 K:0  
#1296A0



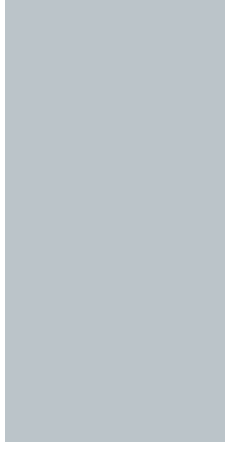
こしきメジロ色  
C:40 M:15 Y:95 K:0  
#ABBA26



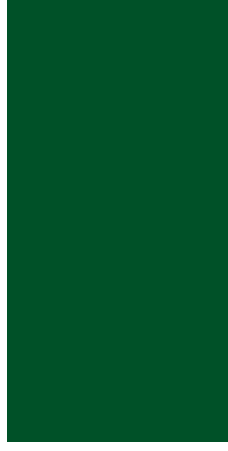
こしきダンガイ色  
C:75 M:60 Y:65 K:20  
#495751



こしきツ子色  
C:50 M:50 Y:65 K:0  
#938060

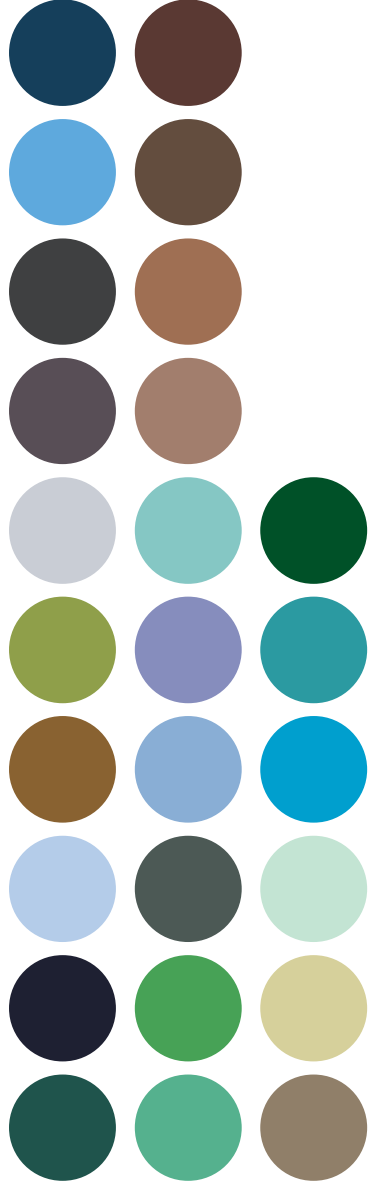


こしきタマイシガキ色  
C:5 M:0 Y:0 K:25  
#CBD0D3

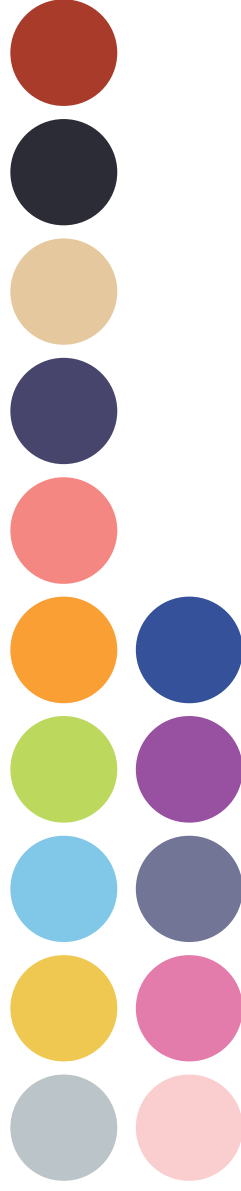


こしきシマミドリ色  
C:90 M:30 Y:95 K:50  
#005326

自然・景観に由来する配色



人・文化に由来する配色



動植物に由来する配色

